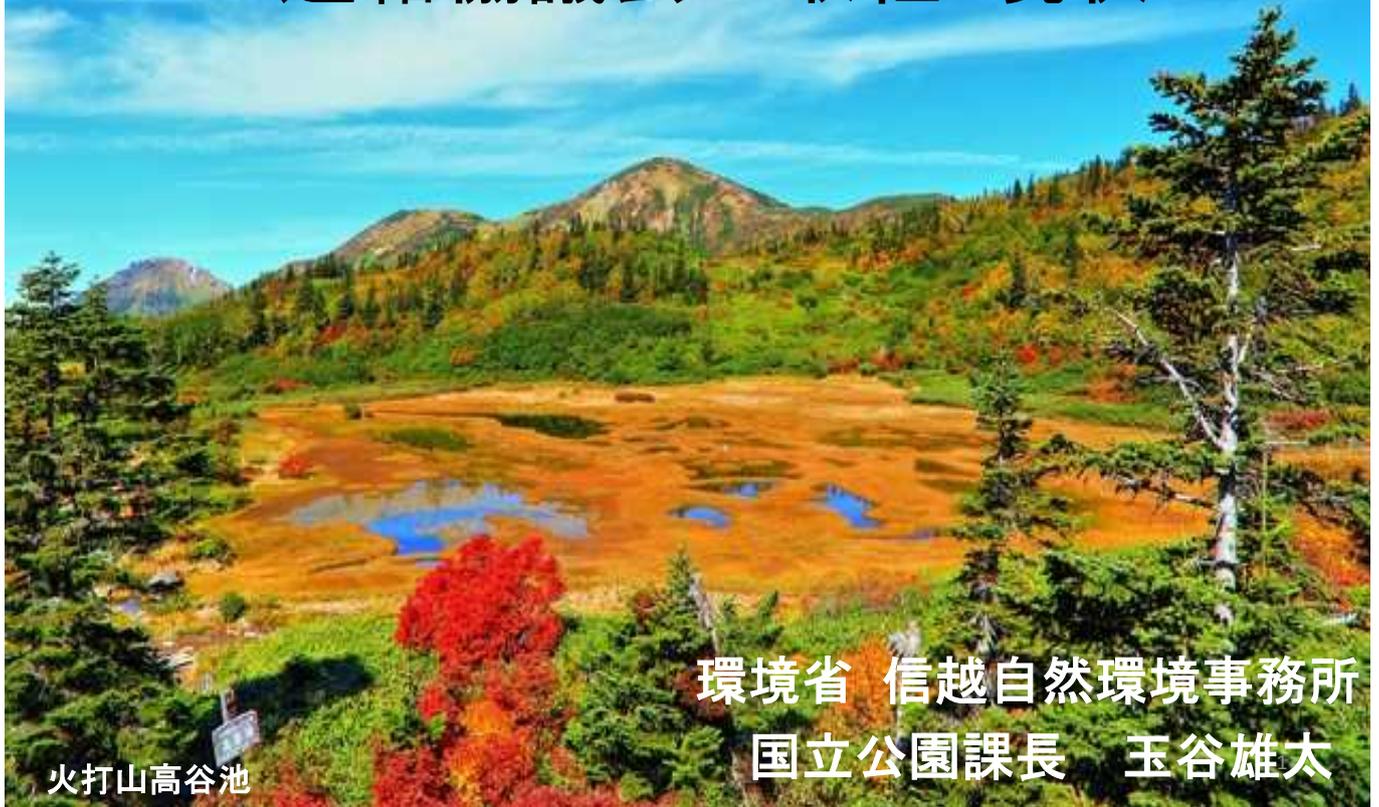


妙高戸隠連山国立公園 連絡協議会の取組・現状



火打山高谷池

環境省 信越自然環境事務所
国立公園課長 玉谷雄太

妙高戸隠連山国立公園

- 指定 H27年3月27日
(S31~上信越高原国立公園)

- 面積 39,772 ha

- 関係自治体 新潟県・・・糸魚川市、**妙高市**
長野県・・・小谷村、長野市、信濃町、飯綱町



シンボル
マークです！



妙高戸隠連山国立公園連絡協議会

平成28年7月に設立

7/20 信濃毎日新聞(4面)

【協議会構成員】

- ・2県6市町村(自然環境担当・観光担当)
- ・6市町村の観光協会
- ・地域振興や自然保護、ガイド組合等の地域関係者
- ・国:環境省・林野庁
(運輸局(オブザーバー))
- ・学識経験者 3名

会長 信越自然環境事務所長
副会長 長野市長
副会長 妙高市長
事務局 信越自然環境事務所



<協議会設立までの取組(H27年度)①>

● 妙高戸隠連山国立公園管理体制等検討会議(全3回)

- ①平成28年度以降の協議会体制案
- ②ビジョン案、管理方針案

関係行政機関と協議会
設立に向けた話し合い

● 妙高戸隠連山国立公園誕生イベント及びPR 方法の 検討ワーキンググループ(全3回)

- ①大人向け、子ども向けシンポジウム
(長野市環境子どもサミット、妙高市シンポジウム)
- ②国立公園誕生記念大スタンプラリー
6市町村にスタンプ台を設置。
自治体から賞品提供。
- ③登山道マップの作成

誕生1年目を逃さ
ず協力してPR



<協議会設立までの取組(H27年度②)>

●地域ごとの意見交換会(4地域)

地元の方の地域や国立公園に対するご意見を伺う

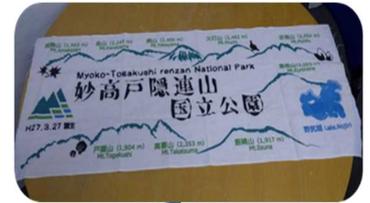
●シンボルマークの決定

4~5月 公募(応募総数264点)

9月 シンボルマーク決定



妙高戸隠連山国立公園
Myoko-Togakushi renzan National Park



マーク入りグッズ

●夏休み自由研究イベント

夏休み期間中に、戸隠地質化石博物館、野尻湖ナウマンゾウ博物館、フォッサマグナミュージアム、妙高高原ビジターセンターにご協力いただき実施



●協議会の体制

総会

(承認機関)

幹事会

・実質的な意思
決定の場

協議会のメンバー

作業部会

部会構成

・情報発信部会
・歩く利用部会
(・エコツアー一部会)

・選抜した協議会メンバー
+
・それ以外の関係者



● 妙高戸隠連山国立公園の“ビジョン”

基本理念

温故知新、そして、日本一愛される国立公園へ

○魅力

「山岳信仰と人々の暮らしが息づく、一目五山の風景」

○役割

「色鮮やかな自然があり続け、日本一の“自然×文化”の
遊学舎(まなびや)であること」

○保全・利用目標

「先人が築き守ってきた自然と文化を、
私たちが自信をもって子どもたちに引き継ぐこと」

7

● 妙高戸隠連山国立公園の“管理運営方針”

①北限のライチョウをはじめ豊かな生物多様性を保全

保全

②妙高戸隠連山NPらしい風致景観を保全

③登山の活性化

利用

④自然や文化で遊び・学ぶ体験活動の活性化

魅力の
再発見

⑤癒やしの場づくり (エコツーリズムなど)

⑥「世界に誇れる観光地」となるよう、観光地としての資質を高める

⑦地域ぐるみで積極的情報発信、「妙高戸隠連山NP」ファンを増やす

⑧「ふるさと、妙高戸隠連山NP」・・・地域住民の心の誇りや暮らしの糧に

⑨協働による取組・・・行政・民家業者・住民・学識経験者など

協働型

<協議会設立後の取組(H28d~)①>

●国立公園管理運営計画(地域案)の作成

●情報発信・利用の推進

- ・総合ガイドブックの作成
- ・WEB広告による登山道情報発信
- ・HP・Facebookの作成
- ・「一目五山の絶景32選」写真コンテスト
- ・自然体験イベントの一元発信・同時期一斉開催



9

<協議会設立後の取組(H28d~)②>

●歩く利用の推進

- ・ロングトレイルのルート選定
- ・標識デザイン統一基準の作成
- ・登山道管理体制の共有・課題解決策の検討



●景観改善

- ・景観改善に向けた勉強会
- ・街並み景観形成勉強会・WS



10

<今後の課題>

- さらなる充実を要する協働型事業
 - 生物多様性の保全
 - エコツアーの活性化

- 活動の継続体制の確保
 - 人手不足、資金不足